

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	リカバリーさくがわ			
○保護者評価実施期間	令和 7 年 6 月 1 0 日		～	令和 7 年 6 月 3 0 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2 9 件	(回答者数)	1 7 件
○従業者評価実施期間	令和 7 年 7 月 1 日		～	令和 7 年 7 月 1 1 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 件	(回答者数)	5 件
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 8 月 6 日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	来所するのを楽しみにしてくれている利用者さんが多い	活動を曜日ごとに分けて提供している為、児童の興味のある活動にあわせて通う事ができるようになっている	活動内容が固定化しすぎないように意識し、季節行事や新しい遊び、製作などさまざまな活動を取り入れていく
2	部屋数が多く、クールダウンやゾーニングを取る事ができる	児童の体調不良やパニック時には、落ち着ける環境をすぐに確保できるように個別対応を行い、クールダウンやゾーニング対応を徹底している。 事前に児童の特性や、対応方法を職員間で共有し安心して過ごせるよう意識した環境づくりを行っている	職員間での支援のばらつきを防ぐために、対応についての話し合いの機会を設け、より質のいい支援を目指していく 保護者との連携強化もし、家庭での様子や効果的な対応を共有することで、家族と連携した支援体制を整えていく
3	Instagramを通して児童の様子を見る事ができる	Instagramでは当日中の投稿を心がけ、日々の様子や行事予定を気軽に確認できるよう発信している。	Instagramの投稿頻度を高め、児童の笑顔や楽しんでいる様子をより多く発信することで、保護者が安心して預けられるような環境作りに繋げていきたい

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会等の開催がない	日々の送迎時や連絡帳等で保護者とのコミュニケーションはとれているものの、保護者同士が交流する機会や、事業所全体の方針や、活動内容を共有する場が不足していることが原因と考える。	まずは負担が少ない形で、小規模・短時間のお茶会のような形を取り、保護者のニーズを探っていく必要があると考える また、参加が難しい保護者に配慮し、資料の配布や、アンケート形式の意見聴取など柔軟に取り入れる事で、少しずつ保護者との接点を増やしていく工夫が必用だと考える 保護者の声を活動に反映する仕組みを整える事で、信頼関係の構築、支援の質向上を図っていく
2	児童館交流や、地域の子どもと活動する機会がない	事業所内での活動を中心としてきた為、地域の子どもたちとの接点を持つためのきっかけ作りや関係構築が十分に出来ていない。	児童館や地域のイベントなど、既存の地域資源について情報収集を行い、気軽に参加できる行事や活動を探すところから始める。 いきなり大規模な交流ではなく、散歩や地域施設の利用、買い物体験の中などで自然な関わりが生まれる機会を意識的に作っていく。
3			